

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

評価日2024年7月

【自己評価 1-1】 専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数					非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	常勤教員	計	基準 数	うち 理学 療法士又は作 業療法士数	助手			
作業療法学科	6人	6人	6人	6人	人	20人	8.2人	
	人	人	人	人	人	人	人	
計	6人	6人	6人	6人	人	20人	－	

【自己評価 1-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの運動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	15	新開 佳子	兼任
		生命倫理学	15	野見山 待子	兼任
		教育学	15	永添 祥多	兼任
		人間関係論	15	野見山 待子	兼任
		基礎医学用語	15	岩本 凌	専任
		基礎医療統計	8	岩本 凌	専任
		対人交流技能Ⅰ	8	高内 志保 他	専任
		対人交流技能Ⅱ	8	高内 志保 他	専任
		英語	15	宮永 重良	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能及 び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	小林 繁	兼任
		解剖学Ⅱ	15	中富 満城	兼任
		解剖学実習	23	片岡 真司 他	兼任
		生理学Ⅰ	15	稲永 清敏	兼任
		生理学Ⅱ	15	稲永 清敏	兼任
		生理学実習	23	稲永 清敏	兼任
		運動学Ⅰ	15	油田 あゆみ	専任
		運動学Ⅱ	15	油田 あゆみ 他	専任
	疾病と障害の成り立 ち及び回復過程の促 進	臨床心理学	15	新開 佳子	兼任
		病理学概論	15	引地 尚子	兼任
		健康生活と運動	15	油田 あゆみ 他	専任

専門分野		整形外科学	15	村上 忠誌	兼任
		内科学	15	未定	
		小児科学	15	山下 博徳 他	兼任
		神経内科学	15	椎 裕章	兼任
		脳神経学	8	恩田 純 他	兼任
		精神医学Ⅰ	15	副田 秀二	兼任
		精神医学Ⅱ	15	外園 怜児	兼任
	保健福祉医療とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	辻 和明	専任
		障害と福祉	15	上原 佳代	専任
	基礎作業療法	作業療法概論	15	専任	
		ひとと作業療法	8	後藤 一樹	専任
		基礎作業学理論	15	高内 志保	専任
		作業療法基礎演習Ⅰ	15	高内 志保 他	専任
		作業療法基礎演習Ⅱ	15	宮尾 京介 他	専任
		作業療法基礎演習Ⅲ	15	宮尾 京介 他	専任
		作業療法基礎演習Ⅳ	15	高内 志保 他	専任
		作業療法総合演習	45	高内 志保 他	専任
		臨床実習指導Ⅰ	15	高内 志保 他	専任
		臨床実習指導Ⅱ	15	油田 あゆみ 他	専任
		臨床実習指導Ⅲ	30	高内 志保 他	専任
		臨床実習指導Ⅳ	30	高内 志保 他	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	宮尾 京介	専任
	作業療法評価学	作業療法評価法総論	15	上原 佳代 他	専任
		作業療法基礎評価法	15	上原 佳代	専任
		作業療法評価法身体領域	23	油田 あゆみ 他	専任
		作業療法評価法発達領域	15	高内 志保 他	専任
		作業療法評価法精神領域	15	後藤 一樹	専任
		動作分析学	15	岩本 凌	専任
	作業療法治療学	作業療法身体領域Ⅰ	23	油田 あゆみ 他	専任
		作業療法身体領域Ⅱ	23	宮尾 京介 他	専任
		作業療法精神領域Ⅰ	15	後藤 一樹	専任
		作業療法精神領域Ⅱ	15	後藤 一樹	専任
		作業療法発達領域Ⅰ	15	高内 志保	専任

		作業療法発達領域Ⅱ	15	岩下 範子 他	兼任
		作業療法高次脳機能領域	15	上原 佳代	専任
		作業療法高齢期領域Ⅰ	15	宮尾 京介	専任
		作業療法高齢期領域Ⅱ	15	高内 志保	専任
		作業療法治療学演習Ⅰ	15	油田 あゆみ 他	専任
		作業療法治療学演習Ⅱ	15	高内 志保 他	専任
		義肢装具学	15	上原 佳代	専任
		義肢装具学演習	15	上原 佳代	専任
		基礎作業学技術Ⅰ	15	宮尾 京介 他	専任
		基礎作業学技術Ⅱ	15	高内 志保 他	専任
		基礎作業学技術Ⅲ	15	高内 志保 他	専任
		基礎作業学技術Ⅳ	15	高内 志保 他	専任
	地域作業療法学	職業関連活動	8	後藤 一樹	専任
		地域作業療法学	15	上原 佳代	専任
		日常生活活動	15	高内 志保	専任
		生活環境学	15	油田 あゆみ	専任
	臨床実習	臨床見学実習	25	高内 志保 他	専任
		地域作業療法実習	25	高内 志保 他	専任
		臨床実習	500	高内 志保 他	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
病院における作業療法場面の見学	1年後期	臨床見学実習	1年後期
通所リハビリテーション 訪問リハビリテーションの見学	2年後期	地域作業療法実習	2年後期
作業療法評価の実践 作業療法計画立案の実践	3年前期	臨床実習	3年前期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	教育課程編成委員会
委員名(委員長)	辻 和明
組織の開催頻度	1年に二度
組織の取り組み内容	・学生による授業評価の実施と分析
	・教員間による授業参観と評価の企画
	・教育課程の体系化、教育目標の検討
自己点検・評価結果の公表	HPで公表(URL: https://tohaya.ac.jp/krc/sc_info/)

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	カリキュラム検討委員会
	委員構成等	辻 和明 他
	改善の仕組みの実際	・各学年の講義終了後のシラバス検討を実施
		・学生による授業評価の分析をふまえての内容の検討
		・年2回(7月、12月)外部委員による内容検討を実施

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

・教育理念に沿い、加えて新・理学療法士作業療法士指定規則に対応したポリシーの改定を実施し、必要なカリキュラムを作成してカリキュラムマップで示し、系統的段階的な教育を実施するため、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・デュプロマポリシーの改定を継続して実施する。 ・養成所指導ガイドラインで定められる、主たる臨床実習施設の確保に至っていないため、確保に向けての検討を継続する。
